

外構デザインの考え方

さまざまな活動の場となる複合施設と併せて、建物周辺に『賑わい』を創出する外構計画を考えます。現在の計画では、県道に面する「にぎわい広場」や「中央通路」、「放課後児童クラブ東側のスペース」など、広さや形状、環境の異なる空間が存在しますが、各々の空間の雰囲気に合わせ、舗装のパターンやストリートファニチャー、植栽などを計画し、施設利用者が楽しめる仕掛けをつくります。

「にぎわい広場」や「植栽」、その他駐輪場を含めた屋外スペースのあり方について、外構デザインのイメージを共有するため、下記に3つの事例・手法をご提示します。

1. 円形・曲線を用いたデザイン

直曲線・曲面を用いることで楽しげで、気軽に立ち寄れるようなやわらかい屋外空間です。



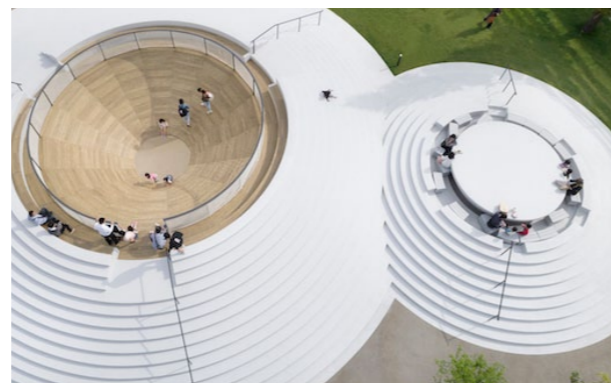
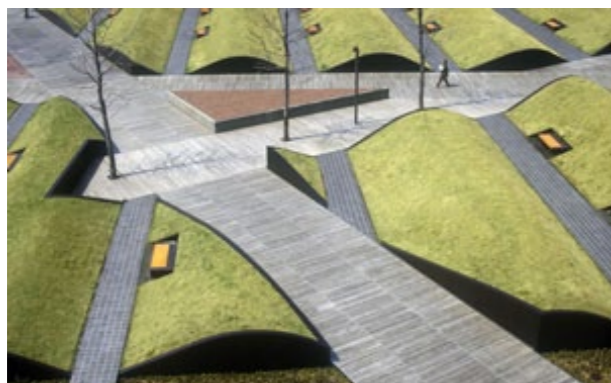
2. ブロックのように塊を立上げたデザイン

矩形の床パターンと合わせて、高さや大きさの異なるベンチやテーブルを配置する事により、人の集まる場をつくります。



3. 山をモチーフにしたデザイン

脊振山をはじめとする付近の山並みをモチーフにした外構計画を考えます。起伏のあるマウンドや連続性のある流動的なデザインによる外構デザインです。



■ 賑わいの生まれる外構デザインを行うスペース (案)

